



小林市 観光振興計画

(2022年度～2026年度)

令和4年3月
小林市



はじめに

本市では、観光のまちづくりは市民、私たち一人ひとりであることを表現した「～誇り・感動・再発見のまち～おはんとさるこ。小林市」を基本理念とした小林市観光振興計画を策定し、様々な事業に取り組んでおります。



しかし、観光を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、さらには、新型コロナウイルス感染症が流行し、本市の産業も大きな影響を受けました。

観光は、世界最大級の産業で、他の多くの産業と相互依存関係にあり、地域の活性化や持続可能な発展のためには、他の産業との相互協力や地域の強みをいかした施策を行う必要があります。

このような中、本市では官民連携、政策間連携、地域間連携を図り、また地域の資源を活用して地域の「稼ぐ力・多様な活力」を引き出すため、平成30年に観光DMO体制を構築しました。今後は、観光DMO体制を軸に、雇用の創出や地域資源のブラッシュアップによる交流人口の増加など、長期的な地域の「稼ぐ力」を創出してまいります。

今後、基本理念の実現にあたっては、本計画に基づく積極的な観光施策の推進と市民一人ひとりが小林市の魅力を知り、愛着を持つことが必要です。本市に様々な人が訪れ、魅力を感じ愛してもらえる「小林市」となるよう、市民の皆様のさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、本計画策定にあたり、ご意見・ご提言を賜りました、観光振興計画審議会委員の皆様やワークショップにご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

令和4年3月

小林市長

増田 義久

～ 目 次 ～

第1章 観光振興計画の趣旨	1
1 計画策定の目的	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画期間	2
第2章 観光の現状と課題	3
1 小林市の観光の現状	3
2 小林市の観光の課題	10
3 主な観光資源	12
第3章 小林市の観光戦略	13
1 基本理念	13
2 基本方針	14
3 基本施策・プロジェクト内容	15
4 数値目標	20
第4章 観光振興計画の推進体制	21
1 推進体制	21
2 進捗管理	21
第5章 資料編	22
1 名簿	22
2 アンケート結果	24

第1章 観光振興計画の趣旨

1 計画策定の目的

本市では、平成24年度から10年間を計画期間とする「小林市観光振興計画」（以下、前計画）を策定し、観光資源の見直しや活用方法の確立、予算配分の検討等を行い、観光や地域をめぐる情勢変化に対応できるよう地域一帯となった持続可能な社会づくりを行うため、「～誇り・感動・再発見のまち～おはんとさるこ。小林市」を基本理念に様々な施策を行ってきました。

前計画期間では、社会情勢の変化に対応するため、平成29年度に市内の関係8団体により今後の観光振興施策を中長期的に進めていく母体として「※小林市観光推進協議会」を設立し、平成30年度には観光地域づくりを行う舵取り役として、※観光DMOを設立し、地域の多様な関係者と協働で観光による地域活性化に取り組んでおります。

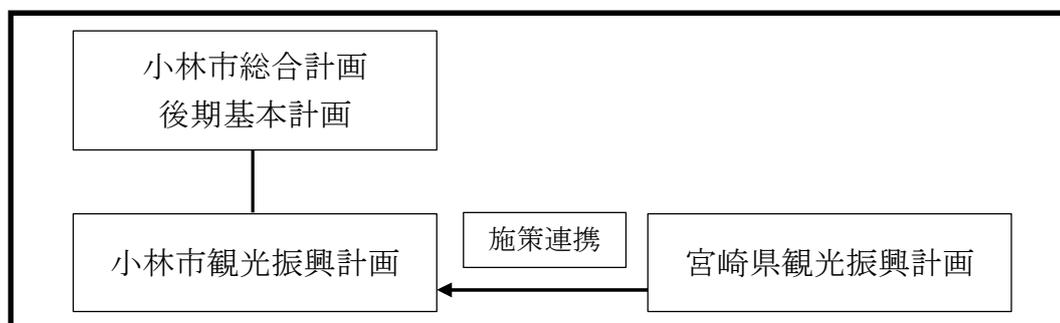
また、近年、新型コロナウイルス感染症が流行拡大したことで、本市を訪れる旅行者のキャンセルや予約控え、外出自粛要請により、観光需要は大きく減少し、旅行業や宿泊業はもとより、地域交通や飲食業、販売業など多くの産業に深刻な影響が生じております。

そうした中、本計画では、第2次小林市総合計画後期基本計画を上位計画とし、社会情勢の変化やウィズコロナやアフターコロナを見据えた「観光地域づくり」の構築を目的に本計画を策定します。

2 計画の位置づけ

令和4年3月に策定した第2次小林市総合計画では、将来都市像「みんなでてなむ 笑顔あふれる じょじょんよかところ 小林市」を掲げており、その観光分野の基本施策「観光産業を振興します」に基づき、各事業に取り組むこととしております。

本計画は、この上位計画に基づき、地域の特性をいかした自主的な施策を策定するものであります。



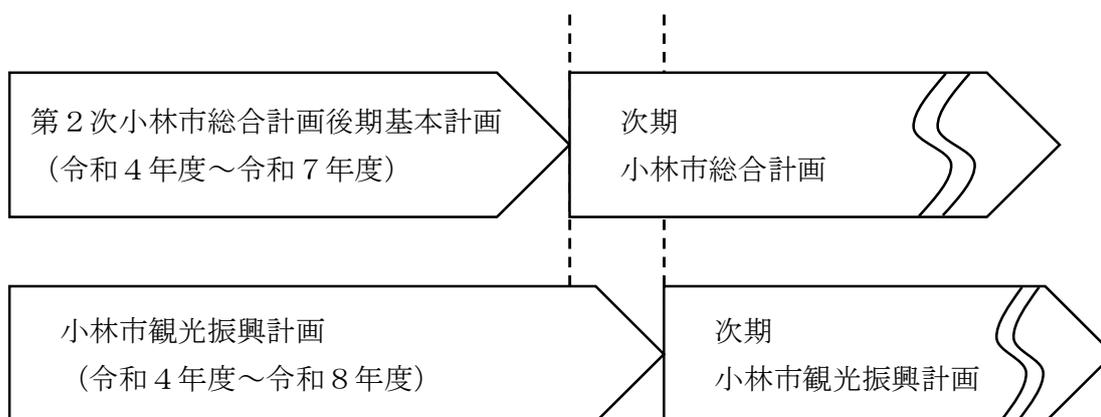
小林市観光推進協議会：小林市、こばやし農業協同組合、小林商工会議所、小林まちづくり株式会社、すき商工会、野尻町商工会、宮崎銀行、小林市観光協会（令和4年3月現在）

観光DMO：Destination Management/Marketing Organizationの略

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

3 計画期間

本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5か年計画とします。



第2章 観光の現状と課題

1 小林市の観光の現状

(1) 観光の現状

平成24年に前計画を策定し、地域経済の活性化や持続可能な社会づくりのために様々な取組を実施してきました。

前計画期間中に見えてきた本市の課題である人口減少や経済の低迷、国内外から高い評価を得ている霧島や生駒高原の優雅な風景、豊かな湧水、質の高い農畜産物等の資源をいかしきれず、経済振興に繋がられていないといった現状があります。そのような中、観光資源や個別分野で精励される事業者の取組が連携し訴求力のある観光サービス・物産を創出するため、平成29年に地域観光プラットフォームとなる小林市観光推進協議会を設立しました。その翌年には観光DMO法人が観光庁に登録され、地域の資源を活用して、観光で「稼ぐ力・多様な活力」を巻き込みかつ引き出ししながら、官民一体となり稼ぐ観光地域づくりに取り組んできました。

しかし、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症数の増加を受け、イベント中止等の要請や緊急事態宣言の発出による外出自粛要請、休業要請等の感染防止に向けた取組から観光産業も需要が大幅に減少するなど非常に厳しい現状が続いています。

現在も新型コロナウイルス感染症は感染拡大とある程度の収束の波が繰り返され、感染リスクに対する不安が払拭されるまでは、感染拡大防止と観光振興の両立を図る必要があります。本市においても感染症対策への意識向上と感染対策の徹底、新しい生活様式に沿ったイベント等の開催を行うなど、地域経済の回復と新しい観光につながる取組を推進していく必要があります。

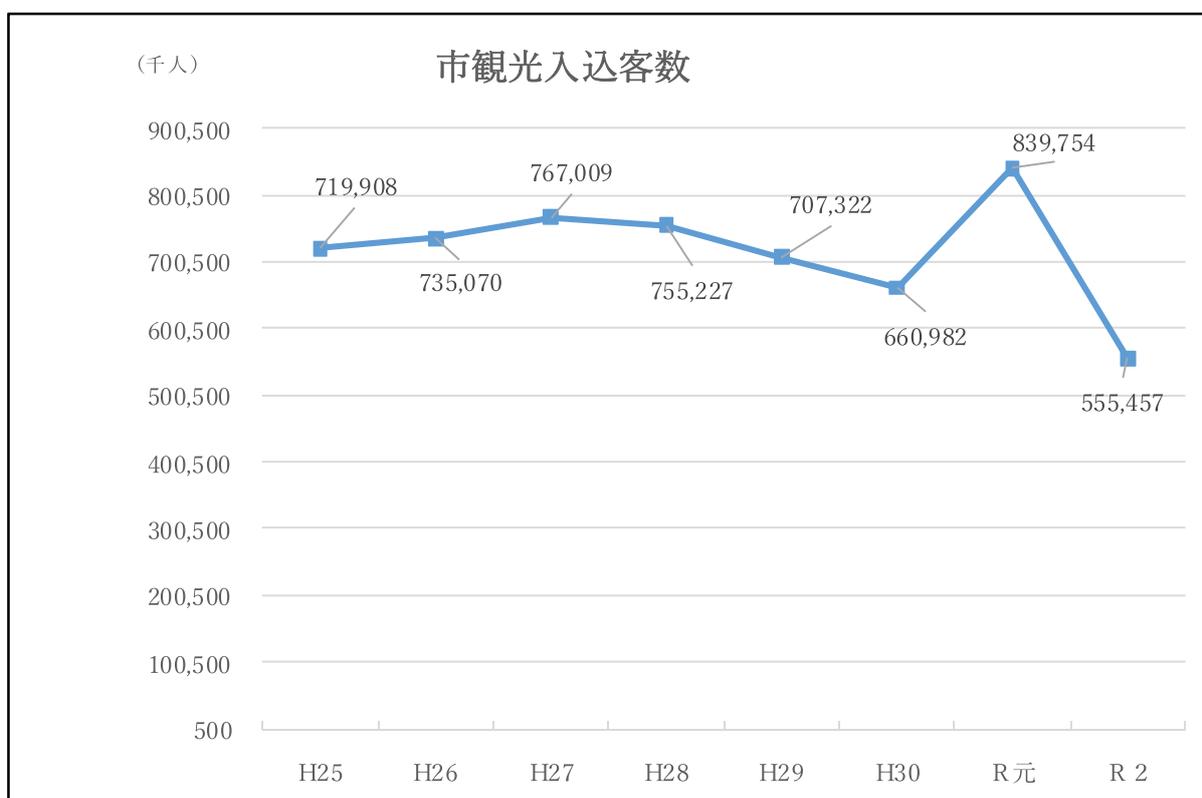
(2) 観光入込客数の推移

小林市の観光入込客数は、平成25年には719,908人でしたが、令和2年には555,457人となっており、平成30年の新燃岳噴火や令和2年からのコロナウイルス感染症の影響があったこともあり全体的に減少傾向にあります。

■観光入込客数

(単位：人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
人数	719,908	735,070	767,009	755,227	707,322	660,982	839,754	555,457



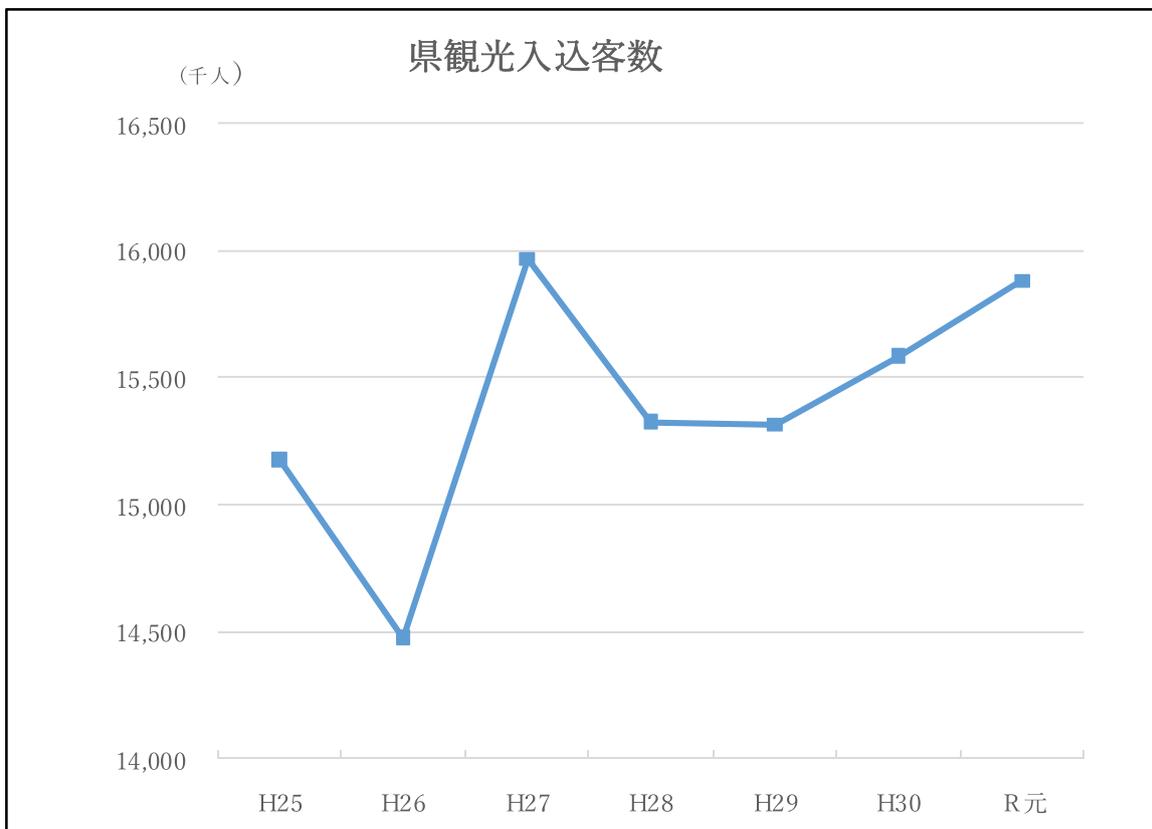
資料：小林市商工観光課資料

宮崎県全体の観光客数をみると、平成 25 年から令和元年にかけて増加傾向にあります。

■観光入込客数

(単位：千人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
人数	15,177	14,477	15,968	15,325	15,315	15,585	15,881



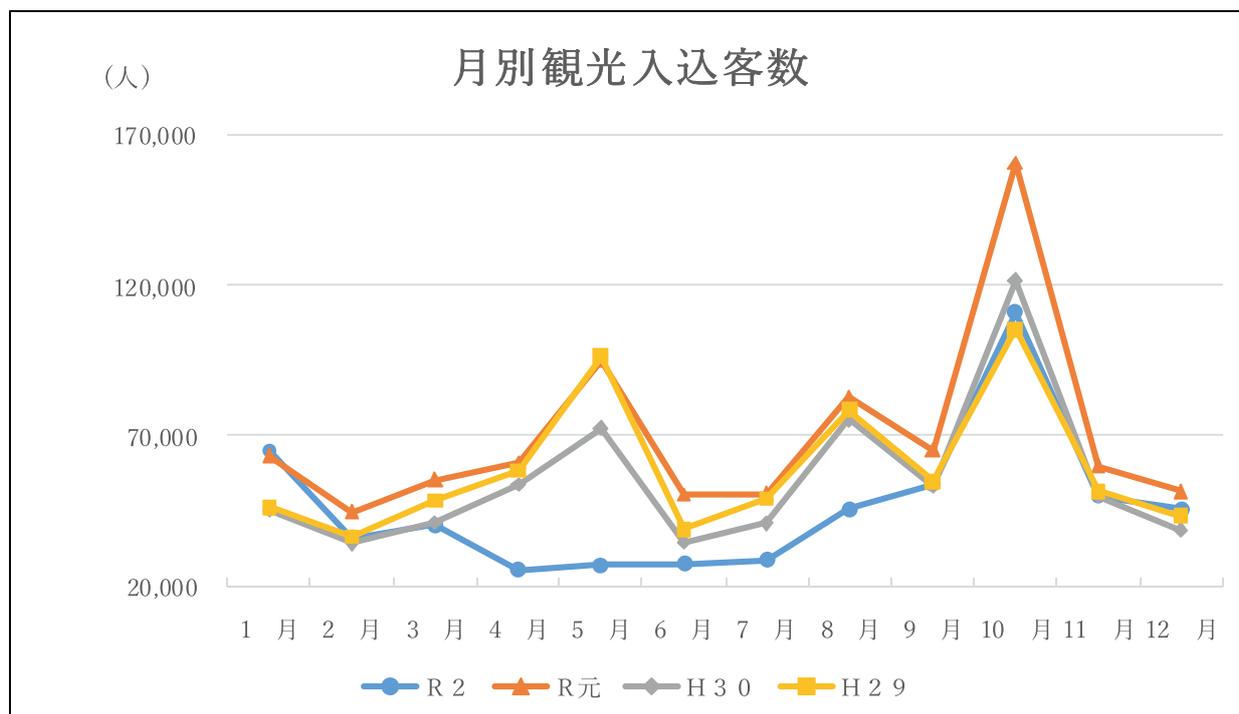
資料：宮崎県観光入込客統計調査

(3) 月別観光入込客数

小林市の観光客数を月別にみると、5月、8月、10月が多く、それ以外の月との差が大きくなっています。要因として5月は生駒高原のポピーや出の山のホテル、8月は帰省に伴う周遊観光、10月は生駒高原のコスモスや紅葉シーズンが考えられます。

(単位：人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H29	46,245	36,501	48,401	58,371	96,478	38,974	48,980	78,559	54,723	105,244	51,611	43,235
H30	45,129	34,335	41,227	53,739	72,498	34,627	40,874	75,377	53,145	121,630	49,739	38,662
R元	63,309	44,598	55,364	61,103	94,761	50,446	50,517	82,685	65,155	160,416	59,841	51,559
R2	64,983	36,038	40,388	25,437	26,947	27,327	28,691	45,441	53,995	111,034	49,641	45,535



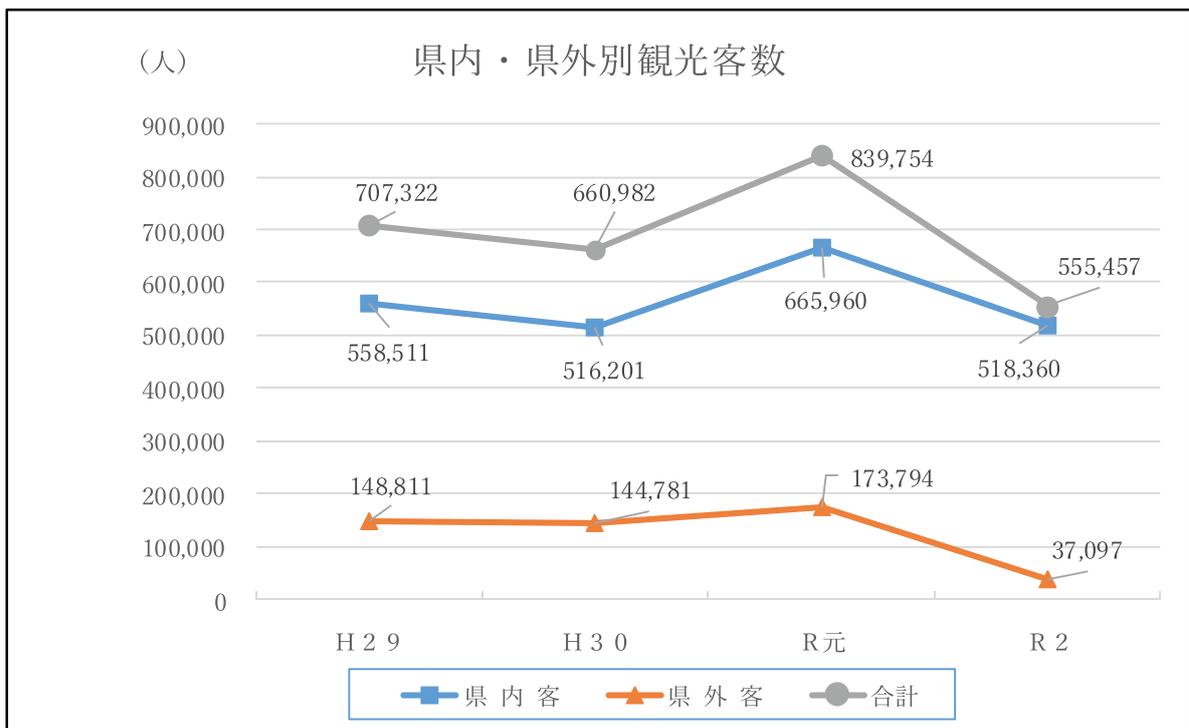
資料：小林市商工観光課資料

(4) 県内・県外、宿泊・日帰り別観光入込客数

平成 29 年の観光入込客数の県内・県外比率をみると、県内客が約 8 割、県外客が約 2 割となっています。

(単位：人)

	H 2 9	H 3 0	R 元	R 2
県内客	558,511	516,201	665,960	518,360
県外客	148,811	144,781	173,794	37,097
合計	707,322	660,982	839,754	555,457



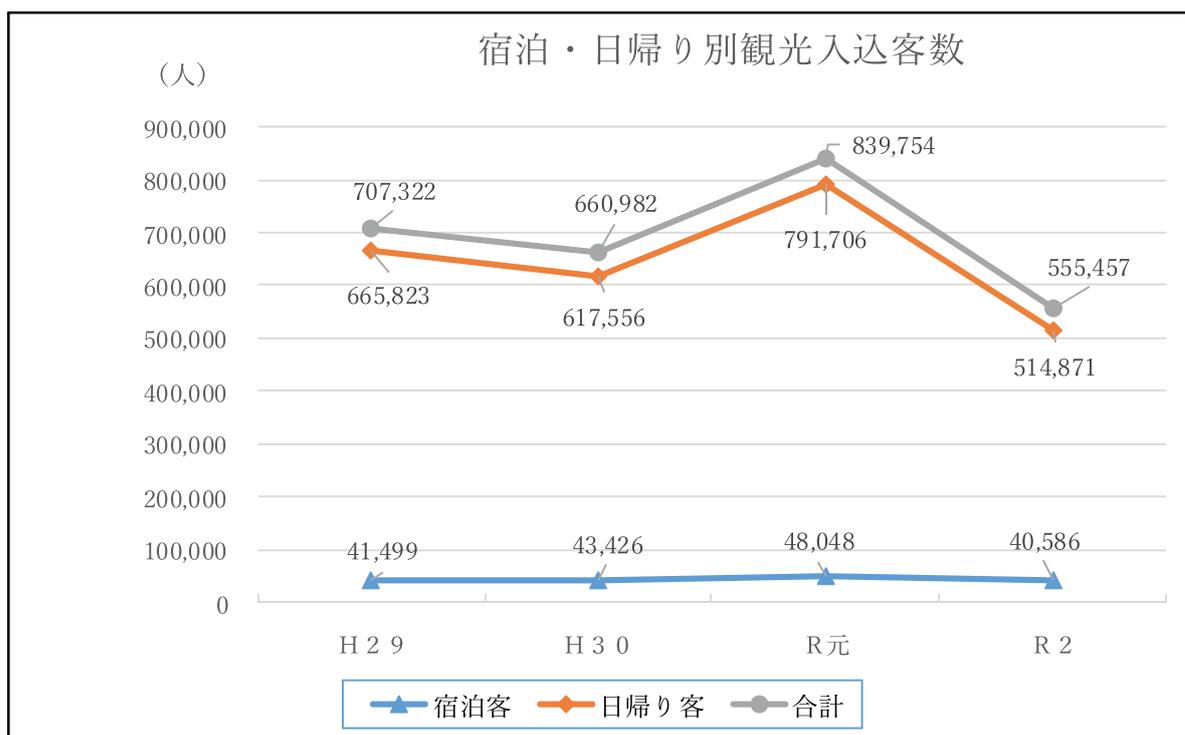
資料：小林市商工観光課資料

平成 29 年から令和 2 年までの 4 年間の宿泊・日帰り別の比率をみると、宿泊客の比率は 6.3%、日帰り客の比率は 93.7%で、日帰り客が多くなっています。

日帰り客は、平成 29 年の 665,823 人から令和 2 年の 514,871 人へと 22.7%減少しています。

(単位：人)

	H 2 9	H 3 0	R 元	R 2
宿泊客	41,499	43,426	48,048	40,586
日帰り客	665,823	617,556	791,706	514,871
合計	707,322	660,982	839,754	555,457



資料：小林市商工観光課資料

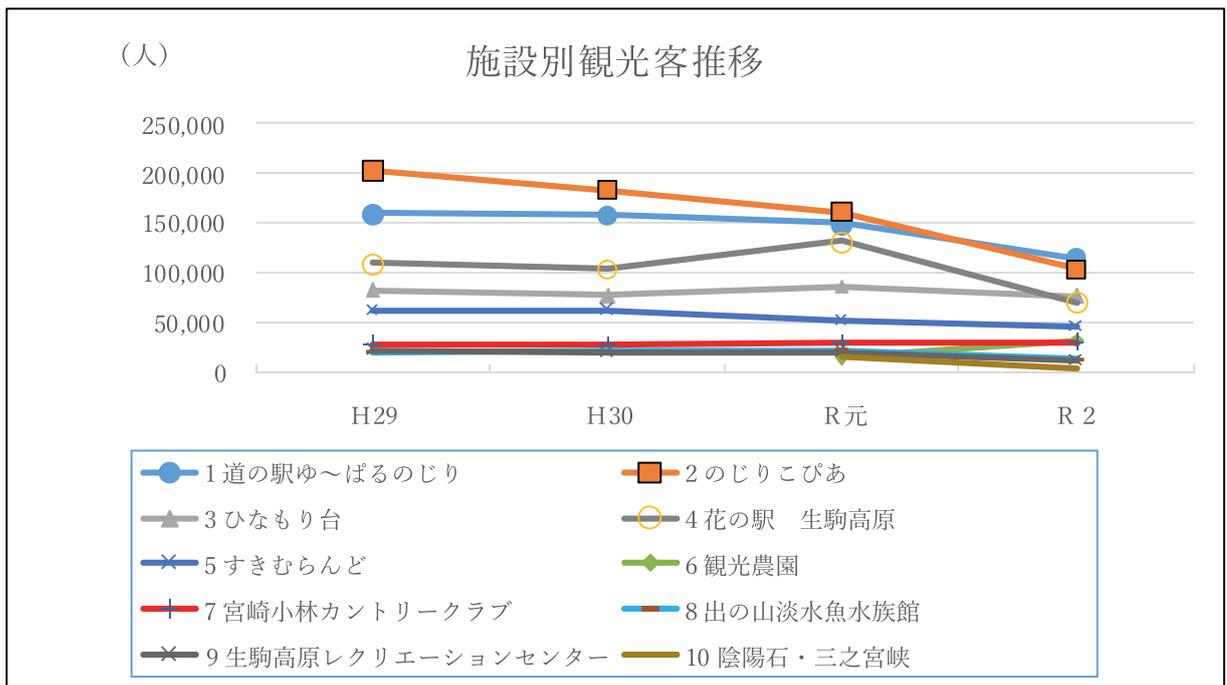
(5) 主要観光施設の利用状況

平成29年から令和2年までの4年間の小林市の観光地別の観光客数をみると、多い順にのじりこびあ、道の駅ゆ〜ぱるのじり、花の駅生駒高原、ひなもり台となっており、地元の特産品を買ったり、遊具や温泉、自然を体験できる施設の客数が多くなっています。

平成29年と令和2年を比較すると、のじりこびあが202,466人から102,907人へと49.2%減少、道の駅ゆ〜ぱるのじりが159,583人から114,525人へと28.2%減少、花の駅生駒高原が109,487人から69,982人へと36.1%減少するなど、客数上位施設が大きく減少しています。

(単位：人)

		H29	H30	R元	R2
1	道の駅 ゆ〜ぱるのじり	159,583	157,274	149,314	114,525
2	のじりこびあ	202,466	182,741	160,630	102,907
3	ひなもり台	82,292	77,345	85,709	76,519
4	花の駅 生駒高原	109,487	103,332	131,495	69,982
5	すきむらんど	61,917	62,075	51,323	45,936
6	観光農園	—	—	14,655	31,478
7	宮崎小林カントリークラブ	27,903	27,057	29,135	29,448
8	出の山淡水魚水族館	20,020	20,580	21,431	12,537
9	生駒高原レクリエーションセンター	22,348	19,302	20,008	11,492
10	陰陽石・三之宮峡	—	—	16,200	3,504



資料：小林市商工観光課資料

2 小林市の観光の課題

(1) 観光DMOによる観光振興の促進

本市は、観光事業者の担い手不足や新型コロナウイルス感染症の影響により飲食店や宿泊業等をはじめとした観光産業は深刻な影響が生じています。また、豊富な資源を有してはいますが、観光振興との繋がりが充分とは言えず、来訪者の93.7%が日帰り観光といった課題があります。

そのため、市民一人ひとりが郷土を愛し誇りを持って本市の魅力発信を行うとともに、関係機関等が連携した観光地の周遊性を高めるプログラムの開発や戦略的及び効果的な※マーケティングによる本市ならではの観光イメージの醸成など、観光DMOを中心に観光振興の促進を図る必要があります。

(2) 体験型の観光地づくり

※体験型観光のニーズの高まりにより、国内で提供できる組織が増加しており、小林市の利用者及び利用時間が減少傾向にあります。

滞在時間の延伸による消費額増加を図るため、地域の特性や観光資源を活用した体験型コンテンツの充実及び宿泊に繋がる滞在型コンテンツの開発・充実を図る必要があります。また、宿泊施設との連携や情報発信、提供する人材確保及び育成を行う必要があります。

(3) スポーツを活用した観光の推進

本市は、「スポーツのまち小林」を推進しており、日本陸連ジュニア長距離合宿や小野湖を活用したボート合宿など、誘致活動の実績があるものの、近年は誘致する競技団体に偏向がみられます。また、こぼやし霧島連山絶景ウォークなどのスポーツイベントを開催していますが、観光振興を目的とした更なる展開が求められています。

そのため、※小林市合宿誘致推進協議会や各スポーツイベント実行委員会など関係団体と観光関係者との連携の強化に努めるとともに、観光を取り入れたプランの開発や新たな競技団体への誘致を図る必要があります。

マーケティング：商品の販売促進、新製品の開拓を行うこと

体験型観光：豊かな自然や文化など地域の資源を見せるだけでなく、そしてそこに関わる人々との交流を楽しむ

体験をすることができる旅行のこと

小林市合宿誘致推進協議会：スポーツ合宿及びスポーツイベントの誘致を推進し、観光振興を図るための組織

(4) イベント等の充実

市内には、「生駒高原」や名水百選にも選ばれた「出の山湧水」など、自然豊かな観光資源が多数あり、四季折々のまつり・イベント・行事等も各地区で行われています。

一方で、これらの魅力ある資源（素材）の活用は充分とは言えず、観光入込客数が減少する中、イベント入込客数も年々減少傾向にあります。また、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症により、多くのイベントに深刻な影響が生じています。

このことから、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考慮し、新しい生活様式に沿ったイベント等の開催や新しい観光につながるイベントを地域一帯となって推進し、イベント入込客数の増加を図る必要があります。

(5) 観光施設等の充実

本市の観光施設は老朽化が進む中、地域の観光資源の活用や関係機関との連携は充分とは言えず、入込客数は減少傾向にあります。更に、一部の施設では、利用料収入の減少が進む中、維持管理費や修繕費の増加により効率的な施設運営ができず、休館や休止を余儀なくされています。

そのため、施設の修繕や改修を実施し施設利用者の満足度を向上させるとともに、指定管理者や観光DMO等との連携を通じて地域や施設の特性をいかした魅力ある観光地づくりに努め、入込客数の増加を図る必要があります。

3 主な観光資源

	名 称
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・夷守岳・大幡山（霧島連山） ・まきばの桜 ・陰陽石 ・出の山公園（名水百選） ・須木の滝（小野湖スタンドアップパドルボート（SUP）） ・のじりこびあの桜 ・花の駅 生駒高原 ・三之宮峡 ・萩の茶屋 ・エヒメアヤメ
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・出の山淡水魚水族館 ・観光農園（坂下地区、種子田地区） ・道の駅ゆ〜ぱるのじり ・ひなもりオートキャンプ場 ・すきむらんど ・のじりこびあ
産業・物産	<ul style="list-style-type: none"> ・焼酎 ・宮崎牛 ・栗 ・きのこ類 ・ワイン ・メロン ・梨 ・ゆず ・鯉料理 ・ミネラルウォーター ・マンゴー ・ぶどう ・キャビア（チョウザメ） ・りんご ・きんかん
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・こばやし霧島連山絶景ウオーク ・こばやし霧島連山絶景マラソン ・まきばの桜まつり ・生駒高原ポピーまつり ・陰陽石まつり ・すき納涼花火大会 ・すき栗祭り ・コスモスまつり ・のじりこびあ桜まつり ・出の山ホテル恋まつり ・こばやし秋まつり・冬祭り ・のじり湖祭 ・すきフェア
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・霧島岑神社 ・永久井野かくれ念仏洞 ・東方大丸太鼓橋 ・二原遺跡公園 ・東麓石窟仏 ・すきほぜまつり



第3章 小林市の観光戦略

1 基本理念

小林市の観光振興を進めていくためには、一人ひとりがまちに誇りを持ち、来訪者と一緒に感動を分かち合い、再発見するまちを創り出すことが必要です。

そこで、小林市の観光振興の基本理念を「～誇り・感動・再発見のまち～おはんとさるこ。小林市」と設定します。

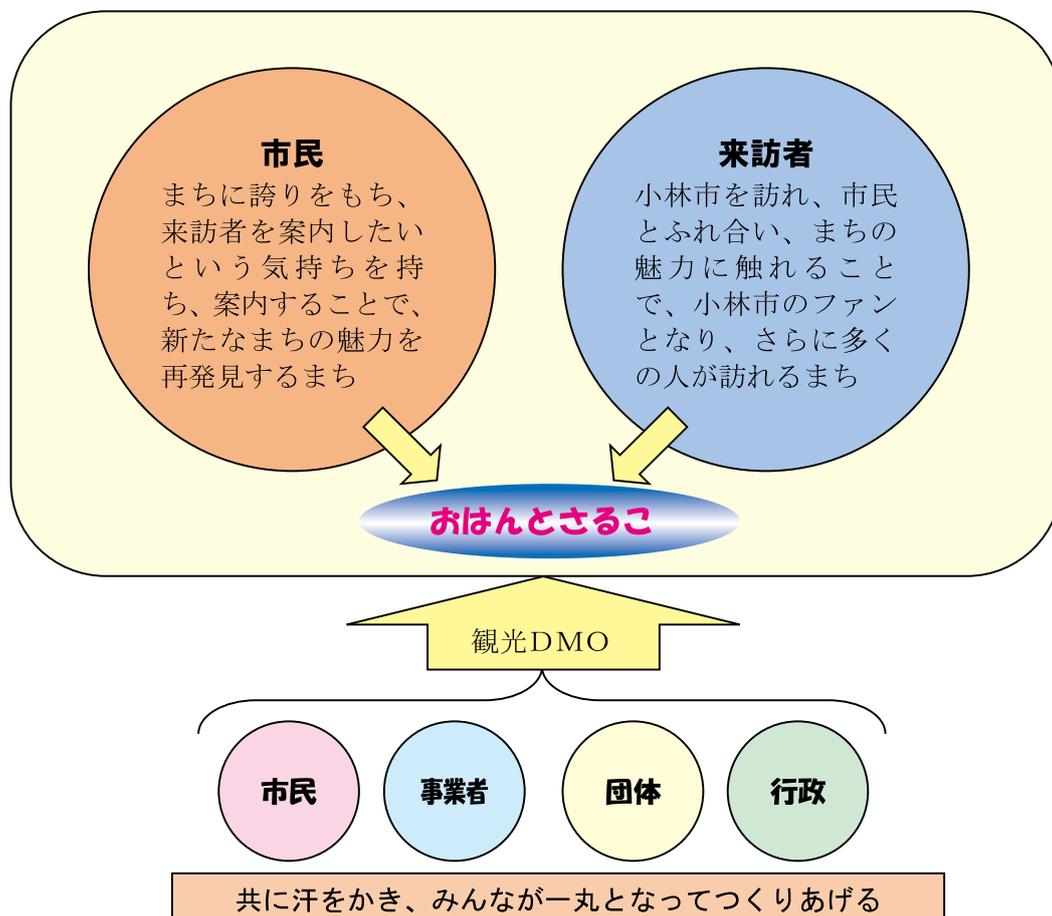
“おはんとさるこ”とは、「あなたと一緒に歩こう」「あなたを案内したい」を意味しており、誇り・感動・再発見のまち・小林に、様々な人が訪れ、交流している姿を目指しています。小林市の様々な魅力に触れることで、また来たい、今度はこの人を連れて行きたいなど、小林ファンの獲得を目指し、案内したいまちになるよう取組を進めます。

また、観光振興の推進に際しては、市民一人ひとり、地域、事業者、行政、観光関係団体が共に汗をかき、一体となって協働で取り組むことが重要となります。一緒に取り組む仲間として、何ができるか考え活動していきます。

基本理念

～誇り・感動・再発見のまち～

おはんとさるこ。小林市



2 基本方針

基本理念に基づき、次の5つの基本方針を掲げます。

基本方針1 観光DMOによる観光振興の促進

観光地域づくりを推進していくために、観光DMO体制による地域の稼ぐ力を引き出す取組を進めます。また、市民一人ひとりの郷土愛を醸成し、市民の誇りを育むため、地域一体となった観光振興に取り組みます。

基本方針2 体験型の観光地づくり

豊かな自然を活用したキャンプや自然体験、田舎体験、更には歴史資源を活用した歴史文化体験や癒やし体験等、地域の特性をいかした豊かな地域資源が活用されている状態を目指した観光施策を展開するとともに、各種ガイド、インストラクターの育成と活動促進を図り、農家民泊や農業体験等の※グリーンツーリズムや※エコツーリズム等の体験型・滞在型観光を積極的に推進します。

基本方針3 スポーツを活用した観光の推進

※「スポーツツーリズム」を推進するため、地域資源を活用し、各種大会や合宿の誘致活動を積極的に行うとともに、スポーツイベントの開催や支援を行い、周辺観光や地域経済の活性化を図ります。

基本方針4 イベント等の充実

地域資源や趣向を凝らした祭り等をいかした観光イベントの開催を支援することにより、観光客の誘致に取り組みます。また、小林区域、須木区域、野尻町区域の魅力ある観光地が連携し、市民や観光客が楽しめる観光イベントの充実を図ります。

基本方針5 観光施設等の充実

市有観光施設は、老朽化による改善が必要な施設が多く、観光客の利便性確保のため年次的に改修等を行うとともに、小林区域、須木区域、野尻町区域の特色や機能を明確にした効率的な施設運営の検討を進めます。また、民間活力を積極的に取り入れ、観光施設におけるICT環境の整備やサービスの充実を図ります。

グリーンツーリズム：農産両村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと

エコツーリズム：自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること

スポーツツーリズム：スポーツのイベントやレジャーを観光資源としていかすこと

3 基本施策・プロジェクト内容

基本方針	基本施策	プロジェクト内容
基本方針1 観光DMOによる 観光振興の促進	(1) 郷土愛の醸成	①市民対象の観光講座の開催 ②次代を担う子ども向け学習会の開催
	(2) 情報発信・収集の充実	①観光資源のPR及び観光ルートの提供 ②データ収集・分析による現状把握 ③イベント等の情報発信
	(3) 観光地域づくりの推進	①観光関係機関等との連携 ②統一したテーマによる観光資源の連携 ③周辺自治体等との連携
	(4) 観光DMO事業の推進	①観光コンテンツの充実 ②食をテーマとした地域ブランドの推進
基本方針2 体験型の観光地 づくり	(1) 資源を活用した体験型・ 滞在型プログラムの充実	①体験型・滞在型コンテンツの充実 ②受入体制の推進
基本方針3 スポーツを活用 した観光の推進	(1) スポーツツーリズムの 推進	①地域資源を活用したスポーツ合宿等の PR及び誘致の推進 ②宿泊施設等と連携したプランの造成 ③関係者との連携 ④スポーツイベントの開催及び支援
基本方針4 イベント等の充実	(1) 観光イベント等の充実	①観光資源をいかした観光イベント等の 開催及び支援 ②既存イベントの充実
基本方針5 観光施設等の充実	(1) 観光施設の整備	①効果的な施設運営の検討 ②既存施設の充実

基本方針1 観光DMOによる観光振興の促進

(1) 郷土愛の醸成

郷土愛の醸成には、市民一人ひとりが小林市に興味をもち、誇りに思うことが必要です。そのため、市民が小林市の観光資源を知る機会や次世代を担う子どもたちが観光について学ぶ機会等をつくり、小林市の観光振興の担い手を育成します。

①市民対象の観光講座の開催

現在、観光DMOが認定をしている※「小林観光ガイド」の協力を得て、市民を対象とした観光講座等を開設するなど、小林市の文化・歴史や水・自然などの観光資源の知識を学ぶ機会を創出します。

②次代を担う子ども向け学習会の開催

小林市への誇りや郷土を愛する心を育むために、学生を対象とした学習会や観光振興へつながる取組により、次世代を担う人材を育成します。

(2) 情報発信・収集の充実

小林市への来訪意欲を持つ人々に的確な観光情報を発信するために、年代や性別など観光ターゲットに応じた戦略的な観光宣伝を行います。また、継続的な観光データの収集・分析に取り組み、戦略の策定及び事業の検証に活用し、※PDCAサイクルの確立を図ります。

①観光資源のPR及び観光ルートの提供

SNS等を活用し、観光ターゲットに応じた戦略的なプロモーションを行います。また「食」や「水」、「自然」などテーマ性を持った観光ルートの開発を行い、積極的に発信します。

②データ収集・分析による現状把握

観光動向調査等のデータを収集・分析し、現状の把握及びデータに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定を行います。

③イベント等の情報発信

市内開催のイベント情報等の集約を行い、関係機関・団体と連携し、SNSやホームページ、広告媒体等を活用しながら、市内外に向け広く情報を発信します。

小林観光ガイド：観光養成講座を受講し、試験に合格して認定を受けた者

PDCA：Plan（企画立案）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返し、問題解決や課題達成などを図る一連のプロセスのこと

(3) 観光地域づくりの推進

観光地域づくりを推し進めるには、観光振興の現状や取組状況についての話し合いや交流を行うなど、日頃から観光関係団体との連携が必要です。そのため、観光関係団体や事業者、周辺自治体等との連携を強化します。

①観光関係機関等との連携

観光地域づくりを進めるため、小林市観光推進協議会で情報共有を図り、観光DMOを中心に観光関係団体や事業者、行政等が意見交換を行い、連携して観光振興に取り組みます。

②統一したテーマによる観光資源の連携

「水」や「花」などを重要な観光資源と位置づけ、環境の保全、地域資源の恵みをいかした商品開発、積極的なPRを行うため、観光関係機関等と連携した取組を行います。

③周辺自治体等との連携

周辺自治体等と連携した観光施策の展開や観光PRを実施するため、広域観光体制の構築を図ります。

(4) 観光DMO事業の推進

観光客の来訪を促すためには、多様なニーズを想定したコンテンツの充実が必要です。

そのため、食や水、自然などの地域資源に新たな付加価値を創出し、資源を活用した観光振興に努めます。

①観光コンテンツの充実

地域資源をいかしたアウトドアプログラムや※ワーケーションの推進等、多様な観光コンテンツの提供を行い、国内及びインバウンド誘客の促進を図ります。

②食をテーマとした地域ブランドの推進

グルメツアーの企画やご当地グルメの開発、飲食店等と連携した特別メニューの開発・提供等を通して、「食」をテーマとした地域ブランドの推進を図ります。

ワーケーション：仕事と休暇を組み合わせた働き方で、観光地など休暇を過ごす場所で休暇を兼ねてリモートワークを行うなどのこと

基本方針 2 体験型の観光地づくり

(1) 資源を活用した体験型・滞在型プログラムの充実

小林市の豊かな自然や特性をいかした体験型のコンテンツの充実を図るとともに、宿泊施設との連携を強化し滞在型コンテンツの開発・提供できる体制づくりを推進します。

①滞在型・体験型コンテンツの充実

宿泊に繋がるコンテンツ及び豊かな自然を活用したアウトドアコンテンツや農業体験（植付け、収穫、エサやり等）、郷土料理の調理体験、田舎暮らし体験など体験型コンテンツの開発・充実を図ります。

②受入体制の推進

宿泊施設との連携や情報発信、体験を提供する人材確保及び人材育成を図るため、受入体制づくりを推進します。

基本方針 3 スポーツを活用した観光の推進

(1) スポーツツーリズムの推進

スポーツ合宿の推進や観光を取り入れたプラン等の開発・提供を行い、「スポーツのまち小林」の積極的なPRや官民一体となって「おもてなしの心」を持った体制づくりの構築を図り、地域の観光振興を目的としたスポーツツーリズムの展開を推進します。

①地域資源を活用したスポーツ合宿等のPR及び誘致の推進

総合運動公園や小野湖などの充実した環境や温泉等の地域資源を活用し、新たな競技団体を含めたスポーツ合宿の誘致活動を積極的に推進するとともに、情報パンフレット等を活用したスポーツ合宿のPRを実施します。

②宿泊施設等と連携したプランの造成

宿泊施設等と連携し、新たな競技団体誘致のため、プランの開発に取り組みます。

③関係者との連携

小林市合宿誘致推進協議会と観光関係機関で連携を図り、情報パンフレットの作成やスポーツ合宿の受入れ体制を整備します。

④スポーツイベントの開催及び支援

既存のスポーツイベントの開催及び支援を実施するとともに、イベントと連携したスポーツツーリズムの展開を図ります。

基本方針4 イベント等の充実

(1) 観光イベント等の充実

小林区域、須木区域、野尻町区域の魅力ある観光地が連携し合い、相乗効果が引き出せるよう、積極的な観光資源の魅力発信を行うとともに、観光イベント及び観光ルートの連携を進め、観光入込客数の増加を目指した取組を行います。また、ウィズコロナ及びアフターコロナを見据え、新しい生活様式に対応した取組内容を検討します。

①観光資源を活かした観光イベント等の開催及び支援

小林市の四季を代表するイベントである「牧場の桜まつり」、「出の山ホテル恋まつり」、「のじり湖祭」、「すき納涼花火大会」などを支援するとともに、新たな観光イベント等の開催を見据え、関係団体や関係機関との連携強化を図ります。

②既存イベントの充実

観光地及び観光イベント相互の連携による事業実施を進め、観光イベントに新たな魅力の創出を図ります。

基本方針5 観光施設等の充実

(1) 観光施設の整備

地域や施設の特徴をいかし、周辺の観光資源と連携しながら効果的な施設の運営及び既存施設を充実させ、魅力ある観光地づくりを図ります。

①効果的な施設運営の検討

市有観光施設の運営状況の調査・把握を行い、指定管理者や観光DMO及び関係機関との連携・検討を行い、適切な維持管理に努めるとともに、効果的な施設運営を図ります。

②既存施設の充実

国内及び※インバウンド誘客の更なる促進に向け、老朽化による施設の修繕や改修を行うとともに、ICTを活用した環境の整備、観光サービスの提供に努め、施設利用者の利便性と満足度の向上を図ります。

インバウンド：外国人が訪れてくる旅行のこと

4 数値目標

観光振興を推進するため、定量的に評価できる数値目標として、総合計画との整合性をはかり、以下の5つの項目を設定し各種施策に取り組みます。

	項目	目標値	基準値
①	観光入込客数	920,000 人	令和2年 555,457 人
②	観光消費額	3,900,000,000 円	令和2年 2,355,000,000 円
③	合宿団体数	40 団体	令和元年 30 団体
	合宿延べ人数	700 人	令和元年 501 人
④	観光イベント入込客数	50,000 人	令和元年 24,595 人



第4章 観光振興計画の推進体制

1 推進体制

観光振興計画の事業推進は、本市を含む小林市観光推進協議会と関係団体、市民等と連携・協力し取組を推進します。また、庁内各部局や関係団体で行っている事業の共有を行い効果的な誘客及び観光消費に繋げていきます。

2 進捗管理

観光振興計画の事業進捗については、本市事務事業評価を活用し、事業単位で分析を行うとともに、小林市観光推進協議会を軸としたワーキンググループを設置し、PDCAサイクルの実施により適切な評価・検証を行います。



第5章 資料編

1 名簿

(1) 観光振興計画審議委員名簿

委員名	所属団体等名称	備考
鬼塚 保行	小林市 副市長	会長
吉留 高志	小林市観光協会 会長	
橋満 良三	小林商工会議所 事務局長兼総務課長	
酒匂 重彰	すき商工会 経営指導員	
満留 定実	野尻町商工会 事務局長	
廣澤 和洋	宮交ショップアンドレストラン株式会社 花の駅 生駒高原 店長	
地井 潤	Kokoya de kobayashi オーナー	
青野 雄介	株式会社 BRIDGE the gap 代表取締役	
大角 恭代	フードビジネスコーディネーター	
佃 慶亮	公募委員	
木村 洋文	小林まちづくり株式会社 統括部長	
山口 恭史	小林市 経済部長	
鷗野 裕一	小林市 須木庁舎 地域振興課長	
野口 健史	小林市 野尻庁舎 地域振興課長	
高野 憲一	小林市 商工観光課長	
外山 玲奈	小林市 地方創生課 シティセールスプロモーター	

(2) 観光まちづくりワークショップ参加者名簿

出席者	団体名	備考
川野 美紗子	小林市観光協会	
千田 知佳	北きりしま田舎物語推進協議会	
永山 理恵	小林商工会議所	
坂元 美保子	小林商工会議所女性会	
宮内 悠次	小林商工会議所青年部	
酒匂 重彰	すき商工会	
今村 礼子	野尻町商工会	
平原 賢夫	野尻町商工会青年部	
兒玉 友紀	小林まちづくり株式会社	
上田 卓矢	小林まちづくり株式会社	
相場 健太郎	小林まちづくり株式会社	
青野 雄介	株式会社 Bridge the gap	
廣澤 和洋	宮交ショップ&レストラン	
兒玉 真吾	株式会社 NPK	
吉嶺 勝	ハーメックのじり株式会社	
後藤 和博	小林 SAP 会議	
假屋 公宏	小林市農業振興課	
米倉 宏貴	小林市畜産課	
片地 洋平	小林市須木庁舎地域振興課	
吉元 聖忠	小林市須木庁舎地域振興課	
江藤 創志	小林市野尻庁舎地域振興課	
笥 伸洋	小林市商工観光課	
横山 責也	小林市商工観光課	
山崎 みなみ	小林市商工観光課	
川野 右恭	小林市商工観光課	

2 アンケート結果

(1) 市民アンケート集計結果

ア. 調査方法

市ホームページ（WEBアンケート）

アンケート調査票（市内6か所に設置）

イ. 調査期間

令和3年7月23日（金曜）から令和3年8月20日（金曜）まで（29日間）

ウ. 設問内容

- 問1 あなたがよく利用する観光資源をお答えください。
- 問2 問1で回答した観光資源には、主に誰と行くかお答えください。
- 問3 小林市に観光客を呼び込むために必要と思う取り組みをお答えください。
- 問4 小林市を訪れる方に紹介したいと思う旅をお答えください。
- 問5 今後、小林市の観光振興にどのように関わっていきたいと思うかお答えください。
- 問6 コロナ禍において、過去1年間の県外への外出理由をお答えください。
- 問7 問6で「外出していない」を選んだ方はその理由をお答えください。
- 問8 コロナ禍前と比べた余暇時間の変化についてお答えください。
- 問9 コロナ禍前と比べた余暇時間の主な過ごし方についてお答えください。
- 問10 小林市における観光振興やまちづくりに期待することや求めることなどがありましたらお書きください。

エ. 回答数

総数	回答総数	334	（有効数	332）
WEB	回答総数	255	（有効数	255）
調査票	回答総数	79	（有効数	77）

主な市民アンケート結果

問1 あなたがよく利用する観光資源をお答えください。

- | | |
|-----------|--------|
| ① 生駒高原 | 22.67% |
| ② のじりこぴあ | 19.33% |
| ③ ゆ〜ぱるのじり | 14.44% |
| ④ まきばの桜 | 10.44% |
| ⑤ 出の山公園 | 10.89% |

問2 問1で回答した観光資源には、主に誰と行くかお答えください。

- | | |
|------|--------|
| ① 家族 | 68.37% |
| ② 1人 | 15.36% |
| ③ 友人 | 8.73% |

問3 小林市に観光客を呼び込むために必要と思う取り組みをお答えください。

- | | |
|---------------|--------|
| ① 魅力的なイベントの開催 | 27.71% |
| ② 積極的な情報提供 | 19.88% |
| ③ 既存施設のリニューアル | 14.16% |

問4 小林市を訪れる方に紹介したいと思う旅をお答えください。

- | | |
|-------------------------|--------|
| ① 地元の食や地域の食材を目的とした旅 | 26.81% |
| ② 豊かな自然やきれいな景色をめぐる旅 | 17.47% |
| ③ キャンプやグランピングなどゆったり過ごす旅 | 17.47% |
| ④ 霧島やえびの高原など周辺の魅力を楽しめる旅 | 14.46% |

問5 今後、小林市の観光振興にどのように関わっていきたいと思うかお答えください。

- | | |
|------------------------|--------|
| ① 観光施設を活用する | 40.66% |
| ② 市外県外の友人等へ小林市の魅力を紹介する | 34.94% |
| ③ 来訪者をおもてなしの心で迎える | 11.75% |

問6 コロナ禍において、過去1年間の県外への外出理由をお答えください。

- | | |
|-----------|--------|
| ① 外出していない | 62.05% |
| ② 旅行・レジャー | 10.24% |
| ③ 仕事 | 7.83% |

問7 問6で「外出していない」を選んだ方はその理由をお答えください。

- | | |
|------------------|--------|
| ① 全国的な収束を待っているから | 58.25% |
| ② 目的地の感染状況を考慮して | 23.79% |
| ③ その他 | 12.62% |
- ・ 職業柄控えている。
 - ・ 県や市の方針があるため。
 - ・ 県外への用事がない。
 - ・ 自粛している。

問8 コロナ禍前と比べた余暇時間の変化についてお答えください。

- | | |
|------------|--------|
| ① 変わらない | 48.80% |
| ② 余暇時間が増えた | 44.28% |
| ③ 余暇時間が減った | 6.63% |

問9 コロナ禍前と比べた余暇時間の主な過ごし方についてお答えください。

- | | |
|-----------|--------|
| ① テレビを観る | 34.34% |
| ② 趣味に勤しむ | 35.54% |
| ③ 運動・スポーツ | 12.05% |

問10 小林市における観光振興やまちづくりに期待することや求めることなどがありましたらお書きください。

- ・ 特産品の開発と販売促進。
- ・ 地元の人も県外の人と一緒に楽しめるイベントを開催して欲しい。
- ・ 小林は昔からの小林ブランドがない。ぜひ作り上げたら良いと思います。
- ・ 子供と遊べるスポットがあったら家族連れがもっと増えると思う。
- ・ 地域文化の掘り起こしと発信、食材が良いのでもっと発信すべきです。
- ・ 誰もが認める美味しい名物があったらいいと思います。
- ・ イベントや自然環境保全などの情報をもっとわかりやすく教えて欲しいです。
- ・ 至る所に観光案内地図の設置。
- ・ 観光は「稼ぐ」という要素を忘れずに、がんばってください。

(2) 市外アンケート集計結果

ア. 調査方法

市ホームページ（WEBアンケート）

イ. 調査期間

令和3年7月23日（金曜）から令和3年8月27日（金曜）まで（35日間）

ウ. 設問内容

- 問1 あなたの性別をお答えください。
- 問2 あなたの年齢をお答えください。
- 問3 あなたがお住まいの都道府県名をお答えください。
- 問4 あなたは小林市を知っていますか。
- 問5 あなたが小林市を知るきっかけをお答えください。
- 問6 小林市のイメージをお答えください。
- 問7 あなたが知っている小林市の観光資源をお答えください。
- 問8 小林市で行ってみたいと感じるものや興味を魅かれるものをご記入ください。
- 問9 あなたが興味のある旅のスタイルをお答えください。
- 問10 自由意見

エ. 回答総数 90

主な市外アンケート結果

問1 あなたの性別をお答えください。

- ① 男性 51.11%
- ② 女性 48.89%

問2 あなたの年齢をお答えください。

- ① 50歳代 30.00%
- ② 60歳以上 15.36%
- ③ 30歳代 18.89%
- ④ 40歳代 17.78%

問3 あなたがお住まいの都道府県名をお答えください。

- ① 県内 34.44%
- ② 関東地方 27.78%
- ③ 九州・沖縄地方 16.67%
- ④ 関西地方 12.22%

問4 あなたは小林市を知っていますか。

- ① 知っている 92.22%
- ② 知らない 7.78%

問5 あなたが小林市を知るきっかけをお答えください。

- ① その他（居住経験や通学など） 32.50%
- ② 親戚や知人が居住している 27.50%
- ③ 仕事・観光で行ったことがある 25.00%
- ④ インターネット 12.50%

問6 小林市のイメージをお答えください。

- ① 生駒高原 23.19%
- ② 霧島連山 21.74%
- ③ 宮崎牛 21.74%
- ④ 移住促進PRムービー”ンダモシタン小林” 13.04%

問7 あなたが知っている小林市の観光資源をお答えください。

- | | |
|----------|--------|
| ① 生駒高原 | 19.27% |
| ② のじりこびあ | 12.01% |
| ③ 出の山公園 | 10.89% |
| ④ 陰陽石 | 10.34% |

問8 小林市で行ってみたいと感じるものや興味を魅かれるものをご記入ください

- | | | |
|----------|---------|----------------|
| ・ 生駒高原 | ・ 観光農園 | ・ 三之宮峡の雄大な自然 |
| ・ のじりこびあ | ・ 霧島連山 | ・ ひなもりオートキャンプ場 |
| ・ 須木焼酎 | ・ おいしい水 | ・ なし・ぶどう |
| ・ ホタル | ・ | |

問9 あなたが興味のある旅のスタイルをお答えください。

- | | |
|---------------------|--------|
| ① 温泉に入る等の癒しを得る旅 | 30.00% |
| ② 豊かな自然やきれいな景色をめぐる旅 | 27.78% |
| ③ 地域の食や地元の食材を目的とした旅 | 23.33% |

問10 自由意見

- ・ 小林に魅力的な観光客向けの宿泊施設があると行きたくなると思います。
- ・ 旧コスモス牧場からの景色はインスタなどで広まりそうなくらい綺麗だと思います。特にアジア系外国人向けのウェディングフォトなど。
- ・ 観光地や美味しいものが多くあるのにPR不足。
- ・ きれいな水を生かした取組をもっとされてもいいと思います。出の山の湧水はとてもきれいです。
- ・ まわりの市町と連携したイベントなどがあると面白いのでは、小林市は西諸ではちょうどよい位置にあり、人もよびやすく、施設も充実している。

小林市観光振興計画

発行年月：令和4年3月

発行：小林市 経済部 商工観光課

〒886-8501

宮崎県小林市細野 300 番地

TEL：0984-23-1174

FAX：0984-23-1197

